

特集=お化け考

1973 NO.5

ZOOM UP



瀧 義胤

愛知県歯科医師会会長

信頼関係を、医師と患者に、

私たち歯科医師は、世界的水準の歯科医学を学び、国民の歯科医療の責任を果たすため努力しています。ところが、昭和36年に国民健康保険の制度が始まって以来、制度の不備と欠陥のため、医療そのものが崩壊するのではないかと危惧せざるをえない状態になっております。これはまことに遺憾なことといわざるを得ません。

そこで私たちは、日本の医療を本来の姿に戻し、世界水準の歯科医学を生かすため、脱保険を計画しました。

脱保険とは、けっして保険診療を拒否したり、敬遠したりすることではありません。良質な医療を供給するため、一口腔単位の診療を計画することです。悪名高い保険医総辞退のような闘争的な考えとは全く異質のもので、計画診療を行うための一つの方途であり、準備の整った会員から実施する計画です。

一般的には、第一次として、時間予約制を完全に実施する。第二次では、計画診療を行うというのが、われわれのいう脱保険です。計画診療は、ややオーバーな言い方をすれば、歯科医療の流れを変えることになるので、一部には若干の混乱が起る心配もあります。しかし、私たちとしては、最大限の努力をする覚悟で



あります。

かつて、歯科医療は「カミカゼ診療」と強い批判を受けたことがあります。待ち時間ばかり長く、診療時間が余りに短い、との苦情もありました。私たちは、診療の合理化と能率アップについて、真

剣な討議を重ね、反省すべきところは反省し、積極的な改善に努力して来ました。しかし、医師と患者の人間関係は、必ずしも満足すべき状態にはなっていません。むしろ悪化の傾向さえ感じられます。そして、その原因の大きな部分は、現行の医療保険制度の不備にあると考えます。

医療は、歯科に限らず、医師と患者の信頼関係が確立されて初めて良質な診療が可能になるものです。十分な医療を行うためと、医療事故を防ぐためには、十分な時間的余裕を持つことが必要です。

患者側への配慮は、なににも増して忘れてはなりません。たとえば、差額徴収といっても、あくまで患者の方たちに納得のいくものでなければなりません。そのためには、患者さんたちの明確な意志表示が必要です。一方では、緊急患者の取扱いも十分に配慮しなければなりません。

医師の卒後研修も重大な問題でしょう。医師たるもの生涯、研修をおこなってはなりません。

なににしても私は、医師が医師たることの責任を完全に自覚し、患者さんとの信頼関係を確立することを、まず第一に強調したい。そして、そのためには、広く社会的、国家的見地からの、歯科医師の環境整備が急務だと考えております。

診療室拝見

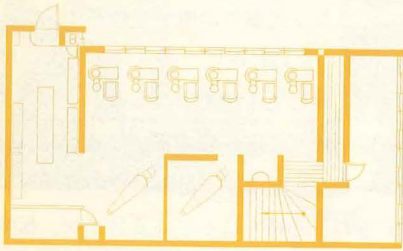
研究熱心な高松の“草分け”

松崎歯科

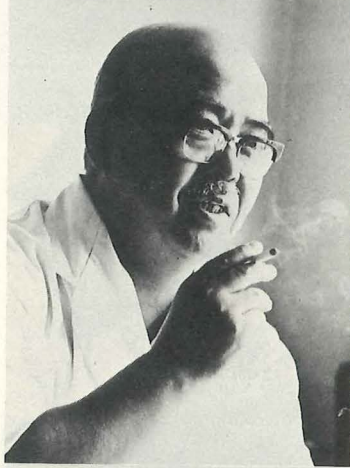
高松市中央1番5号

院長：松崎 剛





政治、経済、交通、観光……文字どおり四国のターミナルである高松。このマチの数多いご自慢のひとつは、天下の名園・栗林公園だろう。そこから歩いて数分という目抜き通りに松崎歯科がある。一部三階建てのスマートな建て物で、一階は診療室、二階は先生の居室など。三階が従業員の宿舎にあてられている。松崎院長は地元の出身だ。昭和11年、先の発展を見込んで川崎市で開業したものの1年余りで召集になり、除隊後高松へ。その後戦災で焼かれ、いまの場所に新しくこの医院を建てたのは昭和23年だった。「そのころ2階建てというのは、朝日新聞の支局とウチぐらいでしたよ。だから船の出入りがよく見えました。ウチは赤い屋根瓦だったから目につきやすかったですよ」—80キロ近くはあろうと思われる貫録十分の松崎院長。当時は背たけほどの草が生え、夜の一人歩きは淋しかったが、



たが、将来は中央通りになることを確信してここを選んだのだという。川崎の今日の発展といい。松崎院長の将来を見通す目の確かさに敬服しながら診療室を拝見する。

医師は院長以下5人、衛生士4人、助手3人、技師4人、それに事務長と受付に2人。香川県1、2を誇る陣容だ。「受付は大事なので内容をよく知っているものを配置しています」と院長。診療室に入るとパッと明るい感じ。採光を考えて天井から床までとった大きな窓。クリーム色の壁とモエギ色のじゅうたんがへや全体に落ち着いた雰囲気をかもし出している。窓べにある白ユリ、アジサイの花びんのほかにはこれといった飾りが全くない。それだけに水色の診療台が目立つ。全部で8台。そのうち1台はズーム。時間のかかる患者をここで診療するのだそうだ。新患も含めて1日平均120—130人。春に医師が1人ふえたので治療台は足りないという。「私はアポイントメントシステムは10年前、市内ではわりに早く始めましたが、完全予約制は行きすぎだと思えますよ。痛みを訴える新患は全部受け付けます。そういう人たちはどうしても待つことになるのでせめて待合室の居心地をよくしたいと、自動車のイスのようなぐあいのいいソファを入れていたこともありますよ」—こんなやさしい心づかいは患者にとって実にありがたいもの。「このごろ日本医師会は“脱保険”を盛んに勧める。いい患者ばかり集めて、高い治療費をとることはそれはもうけにつながるかもしれないが私には

できないんです」。できるだけいい仕事を大勢のお客に平均に行き渡るようにするというのが松崎先生の方針。誠心誠意やればおのずと患者に気持ちが伝わるという信念をもっている。PRしなくても患者は減ったことがないという説明がよくのみこめた。

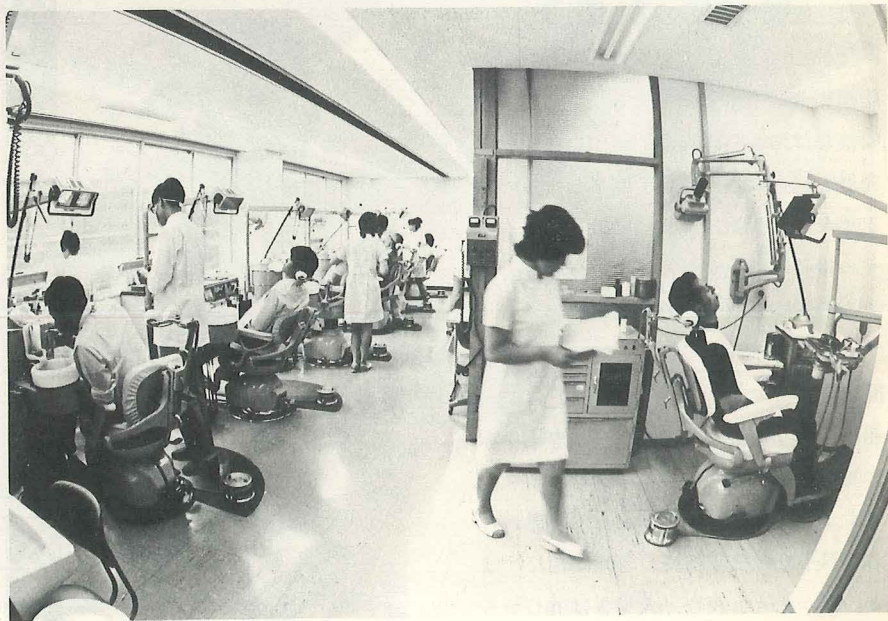
松崎先生は戦後6年県歯科医師会の専務を勤めた。研究熱心なことでも有名。予約制を採用するには技術の向上が大事だとわざわざ上京して、講習会の申し込みをしたり、数年前福岡で開かれた納富哲夫先生の補てつ研究会に2年半毎月出席したり。ハワイ・ロスアンゼルスで開催されたUCLA.のセミナーにも出席し、自分だけではなくここにいる医師たちも年に1・2回研究旅行に出かけている。松崎歯科に勤務し、その後独立して開業した医師たちで「剛門会」をつくっている。松崎先生の名をつけたこの同門の集まりは年1回必ず開かれ、ざっと20人が出席して恩師に感謝の気持ちをあらわすという。松崎先生の人柄をしのばせるいい話だ。

「この道に入ったのは母のお陰なんです。母は大の甘党で30代で総入れ歯をしたくらい。だから私が小学校に上がる前からよく歯医者に行かされましたよ。そのころとしては意識が進んでいたわけです。中学校に入るとしぜんに歯科に興味を持ちました」と松崎先生。いつも時代の先取りをと考えるのはこの母の血を受けついでいるのではないかともしう。

こどもさん3人のうち長男は、歯科大学を出て母校の矯正の教室に残りかたわ



ら週2日は先輩の診療所で修業中。この2代目のために医院の隣りにある古い建物をこわして1階を7台ぐらい収容できる駐車場、2階を技工室、3階を院長室というビルをつくる計画。その日が早くくるのを心待ちにしている様子が、松崎先生のことばからはっきり汲み取ることができた。



診察室拝見

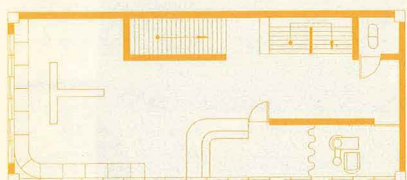
院長先生はアイディアマン

山本歯科

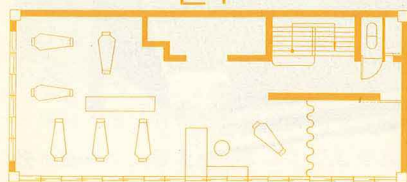
京都市下京区7条通烏丸東入ル

院長：山本泉先生

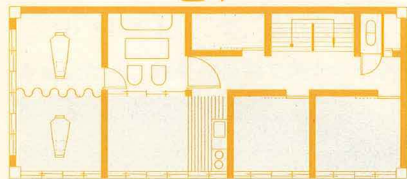




2F



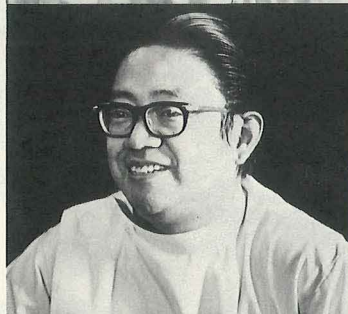
3F



4F



観光シーズンではないが、さすがに京都である。人の波にもまれるようにして駅を出ると2,3分、東本願寺から50メートルほどの近さに「山本歯科」の大きな字を壁にとりつけためざすビルが目にとび込んでくる。ビルの玄関に入るといきなり階段があり、それを上った2階が待合室になっている。ビルの入口はつまり山本歯科医院の入口というわけだった。2階にはそのほか受付、予診室、女子従業員更衣室、3階に第1診療室、消毒室、サプライ室、院長室、4階は第2診療室、技工室、応接室、従業員休憩室となって



いる。2フロアの歯科医院は結構あるが、3フロアにまたがるのは珍しい。

“国際歯科学士会会員”といういかめしい肩書きを持つ山本院長は、話し好きの気さくなタイプ。「隣の土地もほしかったが譲ってもらえなかったのでこんな形になってしまったわけです」とうち明けてくれる。このビルの正式名称はいづみビルといい、一応は別会社の経営で、そこから借りている格好。いづみビルの社長は、山本歯科の医師の一人でもある美代子夫人ということだった。

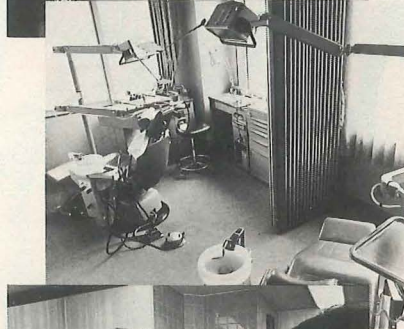
ここの診療スタッフは医師が院長以下7人、衛生士4人、技工士3人、助手6人、事務員1人と多い。これは診療時間が午前9時—午後1時半と、午後4時—6時に分かれた二部交代制をとっているためらしい。

診療室はL字型に治療台が7台並んでいる。ちょっと見にはごく普通のたたずまいだが、院長の説明を聞いているうちに実に細かい部分まで心を配り、アイデアをみごとに生かしていることがわかった。ボタンを押すと2階の受付からカルテが送られてくるエアシューター、1台のレントゲン撮影機がレール上を移動する電動モノレール。診療器具ケースはハッチ式になっているので、診療室と消毒室の両方から同時に使えるし、ケースも自由に移動できる。このほか各階を連絡するインターホン、4階にしながら待合室の様子がわかるモニターテレビ…といった調子。この辺で省略させていただいて院長の話を紹介すると—「46年にこのビルを建てた3年前から気のついたことを、

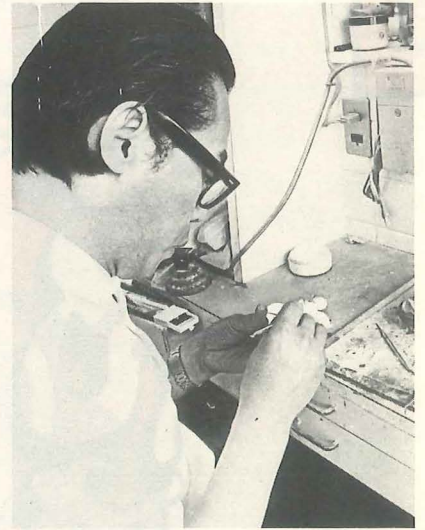
どんな小さなことでもメモしておきました。それにオサダさんの井上室長からいろいろアドバイスを受けまして…。それにしてもここの“近代兵器”はみごとである。

山本歯科医院は水曜と土曜が午後休診。「京都の歯科は水曜半ドンが多いんですが最初に実施したのはボクじゃないでしょうか」1週間を半分に切り、木曜から新しい気分で仕事を始められるという効用があるそうだ。「効用といえばボク自身ボーリングが大好きで、半ドンの日にはいそいそと出かけるんです」といたずらっぽ目つき。趣味の話になったついでにうかがうとこれがまた本格派。電話級のアマチュア無線、十数年前から始めている催眠。催眠の方では日本催眠医学心理会と歯科心理学研究会の会員ということである。

「ボクの最大の自慢は、うちにいる人たちはみんな長く勤めてくれることなんです。中学卒業後入り定時制高校卒業後、衛生士学院で資格をとり、結婚したあとも勤め、十年以上ここで働いた女性がレコードホルダー。「永年勤続で表彰される子がうちでは多いんです。そのうちにボクを最多表彰勤務者院長として表彰してくれないかなと心待ちにしていますがね」と笑う。その表情から悩みなどはないと思われるのだが、「新患の治療と計画診療をどうかみ合わせたらいいか現在悩んでいる」という率直なことばが出てきた。ターミナルに近い場所柄、新患が多いのだという。「でも3時間待たせて治療は3分ということは脱却しているつもりです」



という口調は自信にあふれていた。帰りぎわに待合室をのぞく。たっぷりしたスペース、さわやかなレースのカーテン。ホテルのロビーの感じだ。20冊ほどの雑誌を入れたT字型のマガジンラックは山本院長のアイデアだという。院長の人間味がすみずみにあふれている歯科という印象が鮮烈に残った。



アシスタント紹介

風間和美さん⁽²²⁾

田中歯科医院(田中稔院長)=横浜市磯子区森ヶ丘2丁目28-10

東京都出身。横浜市金沢区に住む主婦兼業のアシスタント。勤務年数は2年。職場と家庭を両立させ、ご主人にはむろんのこと患者さんからも愛されている明朗な女性。若くてきれいだから独身と見る向きが多いらしい。

田中歯科医院にはアシスタントが3人。既婚者が風間さんのほかにもう1人いる。未婚女性の職場という世間の通念とはだいぶ違う感じ。彼女はここのチーフでもある。高校卒業後二年ほど家にいてそれから田中歯科へ。「なんとなくこの仕事が自分に向いているような気がしたもので……。好きなんですね、きっと」。歯科の専門学校を出ていないから衛生士の資格は持っていないが、そこは「好きこそもの上手なれ」ということわざを地でいったらしい。「毎日毎日学ぶことがあ

てやりがいがあります。自分が納得できればその分だけ患者さんにもいい結果をもたらせるわけですから」一笑顔がさわやかな人だ。口調もはっきりしていて気持ちがいい。

ここの医院は午前9時半から午後5時までと、午後1時から7時までの二部交代制。風間さんはふだん午後5時までの勤務。「自宅からはバスの乗り継ぎがあるので1時間かかりますが、こちらはお休みを多くしていただいているし、仕事がとても楽しいので疲れませんね」。聞けばたしかに休日は多い。土日と祝日のほかに木曜日交代で休めるというからうらやましいかぎり。「主婦ですが、お休みのお陰で自分の時間は作れます。まだ大したことはないのですがエレクトーンを。ええ毎週土曜日にレッスンに通ってます。たぶんご主人は理解のある人なのだろう。残業して奥さんの帰宅がおそくなくてもイヤな顔をしたことはないというし、ご主人がときには院長宅でいっぱいやりとり、泊まったりすることもあるということだ。これでは奥さんの職場や仕事に深い理解がもてないはずはない。

「ボクはなまけものだからいつもサボろうと思うが逆にハッパをかけられて…」と院長。風間さんは助手の仕事だけでなく、患者さんとのこまかな契約など秘書の仕事までやってくれるから院長は患者さんと口をあまりきかないでいられるのだそうだ。「どちらが経営者かわからないんだよ、ウチでは」という院長のこぼに「アラ、そんなことおっしゃって」と顔を赤らめる風間さん。「給料多く払っていないのに実によくやってくれるんですよ」「いいえ、たくさんもらっていますよ」一院長と風間さんのこんなやりとりの中にお互の深い信頼感がのぞくようだ。医院からの助成に、自分たちの積み立てを加えた費用でこしはグアム島で休日を楽しむというのも、この医院のチームワークぶりを物語っているような気がする。あなたの長所と短所を一と聞いてみた。「長所は、ほがらかということでしょうか。いつもそうつとめていますので」「短所のほうは……。短所だらけで困っちゃいます。気短かじゃないかと思えます。自分では押えています」一よほど理性の勝っている人なのにちがいない。さっきから、話の合い間にほがらかそうな笑い声が上がるのも演出なのかな。

ところで子供が生まれたらこの仕事やめますか。「できればいつまでも勤めていたのですが、もし子供が生まれたらやめなければならないでしょうね。だから先のことを考えないことにしています」一患者さんからよくプレゼントが届くということだ。風間さんの魅力的な人柄のせいだろう。そんな話はちっともイヤミに聞こえない。



【田中院長の採点】

彼女自身もいっているように性格は短気なところがある。それを押えているのはほりっばだ。それと患者にこまやかな感情で接しているのは院長として文句をいうところがない。私は学校を出てから14年たつが、こういう人とめぐり合ったことはない。



PRactical SET

SMILY

OSADA

新発売

ユニークな「オサダ」の自信作

技術のオサダ、先生がたのお心と、患者さんのお気持ちを何よりだいたいにする「オサダ」が、このたび、また新しい製品を作りました。SMILY(スマイリー)。「オサダ」の個性と良心が、作りあげたユニークな作品です。3台が4台になります。従来の機械は、1間(180cm)に1台が常識でした。それだけのスペースがないと、せっかくの先生がたのお力を、フルに発揮していただくことができなかったのです。SMILY(スマイリー)は、3間に4台おけます。それでいて、どの位置からでも、どんな姿勢でも、じゅうぶん腕をふるっていただけるのです。そうじも簡単。奥様やアシスタントの方々も、大助かりでしょう。価格も手ごろ。これから……という若い先生がたにも、きつと、手を出していただける値段です。「1台ふやそうか……」とお考えの先生にもぴったり。常に、先生がたのお気持ちを汲んで研究・開発をする「オサダ」の新しい作品SMILY(スマイリー)を、どうぞごらんください。



第3回日本デンタルショー
9/22—9/26
〔オサダ〕ブース⑪ご案内

さて、今年もデンタル・ショーの季節になりました。日頃のご注告、ご指導に答えるべく、「オサダ」は従来の製品にさらに心を配り、また、いささか自信の製品もお目に掛けようと、準備をととのえました。

どうか「オサダ」の各種製品を、心ゆくまでごらんください。また、ご質問、ご要望、どうぞご遠慮なくお聞かせください。できる限りのご説明を申しあげようと、準備いたしました。

「オサダ」の社員全員がお待ち申し上げます。どうぞ、ごらんください。

